

■アグリアイディア・ネット 2012年活動計画

<目的>

2012年は、「ハイブリッド農業にチャレンジ」をテーマに、既存農業者や大学生・若者が取り組める【小規模・低投資・自然エネルギーを活用した持続可能なハイブリッド農園】の実現を目指します。

私たちはこれまでも新たな農業に挑戦すべく、東京都内の大学生を中心とする学生・若者と共に活動を行ってきました。2011年には学生と農家がアイデアを出し合いながら新商品を作るプロジェクトを実施し、「学生と農家のバジルソース『若さ、香る。』」（商標出願済）が完成しました。マーケティングも兼ねた販売では大変ご好評をいただき、現在在庫切れの状況です。



この取組みの中で大きな課題・目標となった事は、①豪雪地帯である当地ではバジル栽培に適した時期が限られており秋期～冬期の原料生産が難しい、②学生との取組みをフックにする事で地域農業の活性化に繋がられる可能性が高い、という2点です。それらの解決策として、当団体では「ハイブリッド農業」構想に迫りました。

具体的には、ハイブリッド農園を設置し、安定的に周年生産を可能にする環境を創り出す事です。一般的には植物工場の分類に入りますが、通常の植物工場は「大規模・初期投資が莫大・各分野の専門家が必要・装置が複雑」などハードルが高く、一農家が気軽に始められるものではありません。そこで私たちは、「小規模・低投資・誰でも始められる・自然エネルギーの有効活用」をキーワードにした農園の実現を目指します。これがひいては農業者のモチベーションアップや農業経営の安定化、若者の農業への関心度向上に繋がり、強い日本農業が形成されていくと考えられます。

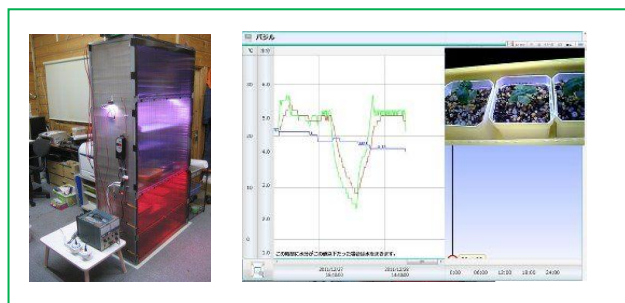
<活動の内容>

(1) ハイブリッド農園の設置・運営

当団体には農業研修生用の自炊型宿泊研修施設がありますが、今年はその敷地内に「小規模ハイブリッド農園」を設置する予定です。この設置に向けて、昨年末より東京都内での植物工場の視察（写真2）や、制御系統の設置トライアル（写真3）を重ねています。この経験値を元に、安定的なバジルの生産体制を組み、バジルの周年生産およびバジルソースの周年販売を目指します。



(写真2) 植物工場の視察風景



(写真3) トライアル中の制御系およびバジル

具体的には、人工栽培の制御に関しては今までの統一的な中央制御からユビキタス的な制御を目指します。これは、個々の制御機械は独立したプログラムにより駆動し、各々の栽培データのみを中央に集め、人間が判断し個々を再調整するという方式です。この利点は、資本投資が少なくて済むこと、一つの制御にエラーが出ても全てが停止することがない、興味があれば自作なども取り組みやすい点などが挙げられます。

(2) 大学生と共に創り上げる活動

この活動は、大学生と共に創り上げます。私たちは「未来の農業のアイデアは大学生の中にある」と感じています。確かに経験の浅い彼らの発想は、現状では実現が困難な「夢」の部分が多いのですが、自由な発想とチャレンジ精神は計り知れないエネルギーとなります。彼らとアイデアを出し合いながら活動することは、ただ構想を実現するというだけでなく、お互いの経験値アップや地域農業の活性化にも繋がります。

また、農業者と言えども、専門とする栽培品目が違えば、農業生産もトライ&エラーの連続となりますが、その楽しさと挑戦を学生さんと共有しながら、新しい農業の方向性を見出していきたいと考えています。「ハイブリッド農業」は、農業の経験値よりも探求心が要求されるため、言い換えれば、スタートラインを同じくした新しい農業への取り組みになります。また結果も数字（販売金額）として出てくるので、一般企業のような効率も要求される事になり、経営的センスにも磨きがかけられます。まずはあらゆる物を手に取り、創る喜びと苦しみを同時に味わって欲しいと考えています。

<特色>

大きな特色は、【ハイブリッド（ハイテク技術）＋農業（ローテク技術）＋若者＋地域農業者】の組み合わせによる、新しい農業への挑戦です。これが可能になる理由は、当団体の地域性にもあります。ここ大潟村は歴史的な背景からチャレンジ精神旺盛な農業者が多く、また、村をあげてソーラーカーに取り組んでいる実績があります（右写真はソーラーカーに取り組んでいた頃の代表 合田です）。当地では、粳穀・稲藁ボイラー・風力発電の研究・普及にも力を入れており、環境・エネルギーに挑戦する土台は他地域に比べ揃った環境下にあると言えます。

